

# めぐみイエス・キリスト教会

2019年10月20日(日)第三主日礼拝  
週報「通算第477号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年10月20日 第三主日礼拝  
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時  
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん  
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌248 「人生の海の嵐に」 p. 382

【交読文】 No.43 詩篇第136篇 p. 913

【賛美Ⅱ】 新聖歌343 「罪に満てる世界」 p. 546

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.8 「神様の愛の言葉」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書19章38節～42節(新約p. 203上段)

【祈 禱】

【説 教】 《アリマタヤのヨセフとニコデモ》 鈴木竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.三つの共観福音書における同一記事から

※マタイの福音書27章57節～60節「マルコを参照して」(新約p.56下段)

27:57 夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。

27:58 この人はピラトの所に行って、イエスの体の下げ渡しを願った。そこで、ピラトは、渡すように命じた。

27:59 ヨセフはそれを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、

27:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。

## ※マルコの福音書15章42節～47節「ペテロの見たこと」(新約p.93下段)

15:42 すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であったので、

15:43 アリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトの所に行き、イエスの体の下げ渡しを願った。ヨセフは有力な議員であり、みずからも神の国を待ち望んでいた人であった。

15:44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いて、百人隊長を呼び出し、イエスがすでに死んでしまったかどうかを問いただした。

15:45 そして、百人隊長からそうと確かめてから、イエスの体をヨセフに与えた。

15:46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけておいた。

15:47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。

## ※ルカの福音書23章50節～55節「綿密に調べ上げて」(新約p.154上段)

23:50 さてここに、ヨセフという議員のひとりで、立派な正しい人がいた。

23:51 この人は議員たちの計画や行動には同意しなかった。彼は、アリマタヤというユダヤ人の町の人で、神の国を待ち望んでいた。

23:52 この人が、ピラトの所に行って、イエスの体の下げ渡しを願った。

23:53 それから、イエスを取り降ろして、亜麻布で包み、そして、まだだれをも葬ったことのない、岩に掘られた墓にイエスを納めた。

23:54 この日は準備の日で、もう安息日が始まろうとしていた。

23:55 ガリラヤからイエスと一緒に出て来た女たちは、ヨセフについて行って、墓と、イエスの体の納められる様子を見届けた。

## ●ポイント2. ニコデモとは？

## ※ヨハネの福音書3章1節～10節「イスラエルの正教師」(新約p.161上段)

## ※ヨハネの福音書7章50節～52節「最高議会において」(新約p.174下段)

## ◎先週のメッセージの概要【目撃した者】

《まず、「その安息日は大いなる日」と言うことですが、ニサンの月の14日金曜日であり、その日没と共に午後6時から始まるニサンの月15日は、過越の祭の第一日と重なる日と言う意味になります。よって大祭司たちは、安息日が始まる前に、十字架につけられた者を埋葬する為、その死を早めることをピラトに願ったのです。足の骨を打ち砕くことによって囚人は窒息死します。

ここにも神様の摂理が働いています。兵士はまず左右の強盗のすねを折ります。そして次に、主イエス様のすねを折ろうとするのです。

しかし、すでにイエス様は息絶えられており、ローマ兵の一人が、わき腹から心臓にかけて槍を突き刺します。すると「血と水」が出たと言うわけです。

ヨハネは、詩篇34篇『主は、彼の骨をことごとく守り、その一つさえ、砕かれることはない。』と書かれた預言の成就したことを、明確に書き記しています。

次に「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」と言う預言は、紀元前520年頃に祭司ゼカリヤによって預言されました。『その日、私は、エルサレムに攻めて来るすべての国々を捜して滅ぼそう。私は、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、私を仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者の為に激しく泣く。』と。

イエス様を槍で突き刺したのは、ローマ兵でしたが、その事の発端は大祭司たちにあります。それゆえ、「自分たちが突き刺した者」となっています。黙示録では、主の再臨の時に預言が成就することを、明確に示めています。

さて本日のメッセージタイトルは「目撃した者」ですが、実は、9章35節に、『それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。』と書かれています。この箇所解釈から、これがヨハネとは別の弟子であると主張する聖書学者が多くいます。しかし、主イエス様がゲッセマネで捕らえられてから、裁判、十字架、埋葬まで常に目撃した者として、証人として見届けたのは、使徒ヨハネなのです。その理由は、主イエス様の十字架から、60年以上後に、最後の生き残りの使徒として、「第四福音書」を書く為なのです。》

## ◎お知らせ

※台風19号の被害にあった方々の為にお祈りして行きましょう。次回礼拝は10月27日です。通常通り第一礼拝と第二礼拝を行ないます。また次回「聖書の学びと祈り会」は、10月23日(水)に行ないます。30日(水)はお休みします。